



2010(平成 22)年 5 月 14 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社  
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号  
代表取締役社長 ピー・ピー・デューコム  
(コード番号:東証一部 5012)  
問合せ先:  
エクソンモービル有限会社 広報渉外部  
Tel: 03-6713-4400

### 第 1 四半期決算に関するお知らせ

本日、東燃ゼネラル石油株式会社(以下当社)は、平成 22 年 12 月期第 1 四半期(1-3 月)(以下当期)の連結決算を下記の通り確定しましたのでお知らせいたします。

記

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成 22 年 12 月期第 1 四半期(A)	586,858	18,379	18,595	31,580
平成 21 年 12 月期第 1 四半期(B)	484,223	13,052	12,712	7,656
増減額(A-B)	102,635	5,326	5,883	23,923
増減率(%)	21.2	40.8	46.3	312.5

連結売上高は、原油価格動向を反映した石油製品価格が前期に比べて高水準で推移したことから、前年同期比で 21%増加して 5,869 億円となりました。ただし、石油製品の需要とマージンが低迷を続ける中、販売数量は国内・輸出ともに減少しました。

連結営業利益は、前年同期比で 41%増加して 184 億円となりました。主な要因は以下の通りです。

#### (1) 石油製品事業

石油製品事業の営業利益は、119 億円(前年同期比 34 億円減)となりました。この中には、在庫関連利益約 187 億円と、当社が採用している積み荷ベースでの原油調達コストの計上方法によるマイナスの影響約 20 億円が含まれています。当期は、前年同期に比べると、石油製品マージンが低水準で推移しており、これら特殊要因を除いた石油製品事業の実質営業利益は、48 億

円の損失(前年同期比 273 億円減)であったと推計されます。

石油製品事業 営業利益 前年同期比較の分析			(単位:億円)
項目	平成 22 年 第 1 四半期	平成 21 年 第 1 四半期	増減額
営業利益	119	153	△34
原油コスト認識時点の差による影響額(推計)	△20	△90	70
在庫関連利益	187	18	169
上記特殊要因を除く営業利益(推計)	△48	225	△273

(2) 石油化学製品事業

石油化学製品事業の営業利益は 64 億円(前年同期比 87 億円増)となりました。国内需要、マージンともに低迷していた前年同期に比べると大きな改善が見られました。

営業外損益は 2 億円の利益となり、連結経常利益は 186 億円(前年同期比 59 億円増)となりました。

バッテリーセパレーターフィルム事業子会社の合併会社化に伴う持分変動利益の計上等により、特別損益は 203 億円の利益となりました。

以上の結果、連結四半期純利益は 316 億円(前年同期比 239 億円増)となりました。

以上